

# 「奥様、ご主人は奇跡です、信じてください」

約3年前、突然、なぜかわからないまま、生と死の間で激しい戦いに巻き込まれました。この長い戦いの間、死の顔を見ました。しかし、何が起こったのでしょうか？私は福者アルバロ・デル・ポルティリョのおかげでそれをお話しします。

2023/10/01

2015年8月9日の日曜日で、私たちは静かに昼食をしていたレオンから、兄を住んでいるアグアスカリエンテスへ連れて行く予定でした。夜の10時前、私の妻、兄、そして私の3人で、バンに乗って出発しました。レオンからラゴス・デ・モレノへの道路区間では、私は高速レーンで約100km/hで運転していました。突然、私たちが通過しているときに、壁の間に設けられた小さな隙間から馬が出てきました。

馬は運転席側のバンの側面にぶつかり、フロントガラスの支柱が馬の首に当たったので、馬は頭を蹴ってフロントガラスを割り、私の頭に当たって頭蓋骨の半分を粉々にした（...）。助かったのは、これが直線道路での出来事だったことと、私の兄がコ・ドライバーとして前に乗っていたので、なんとかバンを道の横にして、止めることが出来ました。

救急車でラゴス・デ・モレノにある最寄りの診療所に運ばれ、そこで「右頭頂部虚脱、脳浮腫、重度の頭蓋脳外傷、くも膜下出血フィッシャー4度、閉鎖胸部外傷」と診断され、すべてのバイタルサインが最低レベルだったため、11時間にわたって安定化を図ってくれた。私は死にそうだった。

その間に事故は報告され、家族や友人の間に広まり、初日からいくつかの祈りの連鎖がWhatsAppグループを通じて形成され、彼らは深い信仰をもって、福者アルバロ・デル・ポルティージョの執り成しによって、私の完全な回復を毎日同じ時間に、さまざまな都市や国々で求めた。

緊急手術が必要だったため、私は別の救急車でレオンの病院に移された。レオンの病院に到着すると、彼らは途中で大きな危機があり、私を蘇生させなければならなかったとコ

メントし、最悪の予後を明らかにした。

**手術に8時間、昏睡状態で1週間、集中治療室で2週間。**

レオンの病院に着くと、私はすぐに手術室に収容され、そこで減圧開頭手術を受けた（...）。手術が8時間続く間、出入りする医師たちは、私が生きて帰れないことに賭けていた。そして祈りの連鎖はさらに激しく続いた。手術後、私は1週間昏睡状態に置かれ、2週間は集中治療室で経過を観察された。手術をしてくれた神経外科医は、もし目が覚めたとしても、足や腕の運動障害、何も覚えていない、誰のことも覚えていない、話すことも書くこともできないなど、多くの後遺症が残るだろうと予測していた。

集中治療室にいる間、私は病者の塗油を受けていた。多くの家族や友人がやってきて待合室を埋め尽くし、

祈りの鎖は力強く続いていた。6日後、私は何事もなかったかのように昏睡状態から目覚め、完全に動けるようになり、家族全員のことを思い出し、お腹が空いていた。集中治療室から出た私は、2015年8月27日に再び目の手術を受けなければならなかった。そして祈りの鎖はまだ続いていた。

**「奥様、ご主人は奇跡です、信じてください」**

事故から1カ月後、私は病院を出て自宅で回復を続けましたが、脳と硬膜（脳の保護膜）の回復に時間をかけなければならなかったため、過度の注意を払って、その1年間は自転車用のヘルメットで保護し、抗痙攣薬を持参しなければならず、仕事も勉強もストレスも感じることはできませんでした。そして、祈りの鎖はまだ続いていた。

私が最初に治療を受けたラゴス・デ・モレノのクリニックの副院長は、1ヵ月後、私の妻に経過観察の連絡を入れ、私が退院したこと、すべてが順調であること、後遺症がないこと、完璧に歩いたり話したりしていることを聞いて、こう言った。「奥様、ご主人は奇跡です、信じてください、ご主人は生死の境をさまよったのです」。

## **福者アルバロ・デル・ポルティージョの執り成しによる祈りの連鎖**

そして1年後、2016年8月2日に再手術を受けることになり、エポキシ樹脂を塗ったチタンメッシュを

（.....）被せられました。そして祈りの連鎖は激しく続いた。手術はすべて完璧に進み、3日後にはまた退院して自宅で回復を続けました。病院には引き続き通いましたが、検診と医師のフォローアップのためだけでした。

この間、感情的な浮き沈みがあったことは認めますが、結成された素晴らしい祈りのチームによって、私はいつか完全に勝利を受け入れることができると完全に確信していました。そして、ついに2018年9月8日、私は確定退院を言い渡され、仕事も勉強も、通常の活動に戻る許可が与えられました。

私の完全な回復のために執り成しをしてくださった福者アルバロ・デル・ポルティージョに感謝するとともに、この実現のために初日から祈りの連鎖を作ってくれた家族や友人たちに感謝している。その中には今日まで続いているものもあり、その驚くべき結果を見て、今では他の病人や怪我人、あるいは家族からの特別な要求のために祈り続けている。

メキシコ、J.C.B.C.

---

pdf | から自動的に生成されるドキュメン  
ト [https://opusdei.org/ja-jp/article/  
Okusama-go-Shujin-wa-Kiseki/](https://opusdei.org/ja-jp/article/Okusama-go-Shujin-wa-Kiseki/)  
(2026/01/25)